

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

購読の申し込みは
日本医労連へ

購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)
送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替 00160-6-84866

ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

18春闘

改憲阻止

全国一律最賃の確立

大幅賃上げ

働き続けられる労働条件を勝ちとろう！

18春闘勝利めざし 産別結集を強めよう

11月30日～12月1日、静岡県伊東市内において「2018春闘討論集会」を開催し、7全国組合40県医労連173名が参加し、熱心な討論を行いました。

開会にあたり、森田しのぶ中央執行委員長は衆議院選挙結果に触れ、憲法改悪を許さず、人間らしい働き方と大幅賃上げにむけて組織拡大・強化をしながら頑張ろうと挨拶しました。



森田しのぶ 中央執行委員長

北海学園経済学部の川村雅則教授が「非正規雇用問題、格差・貧困問題に労働組合はどう取り組むべきか」と題して講演、その後森田進書記長が春闘構想を報告しました。森田書記長は、①月額平均4万円以上・時給誰でも2500円以上の賃上げ、②企業内最低賃金協定「時給で看護師1800円以上・誰でも5000円以上」、③年齢別ポイント賃金、等の要求案を強調しました。また、日本医労連「全国最賃アクションプラン」第3次案を示し、全労連



に結集し「全国一律最賃制」の実現を目指すとともに、必要人員確保と安全・安心の医療・介護実現のためにも産別最低賃金制度新設で賃金底上げを進めるとしました。

報告をうけて加盟組織書記長分科会と分散会に分かれた参加者は、17秋闘から18春闘への取り組みについて積極的な意見交換を行いました。

森田書記長は、「報酬のマイナス改定は人手不足に拍車をかけ、医療・介護崩壊を深刻にするのみ。引き上げの運動強化と共に、これを理由とした引き下げ回答や、回答遅延は許さない。産別結集を強め、春闘勝利、憲法や労働法制をまもるために大いに力を発揮しよう」とまとめました。

日本医労連は、18年1月の中央委員会で方針を確定しま

参加者決意

島根県医労連
書記次長 小村 智也



今回初めて春闘討論集会に参加しました。労働組合活動は、「みんなで考え、みんなで作る」これは本心にしっかりとしました。小さなひとりの力を合わせて、組織として強くなっていくとよいと思いました。

講演

非正規雇用問題、格差・貧困問題に労働組合はどう取り組むべきか

北海学園大学 川村雅則 教授



す。

また、同日・同会場で「争議対策会議」を開催しました。不当解雇や不当労働行為撤回を求めてたたく全国の仲間が10加盟組織から争議の当事者6名参加し、1日も早い争議解決に向けて全体で奮闘する決意を確認しました。(※次頁参照)。

論議と討議

これまでの運動の成果を信じ 全力で運動を強めよう



森田進書記長

集会初日の北海学園大学川村雅則教授の講演では、「職場や地域から格差と貧困をなくす取り組みこそが、労働者全体の処遇改善や国民生活向上につながる課題と捉え、非正規雇用労働者の諸要求実現に労働組合がもっと視点を向けるべき。そしてそのことが最低賃金の底上げにもつながっていく」との提起があり、まさに私たちがいま力を入れようとしている課題の重要性を確認させていただいた内容でした。

国民の声に耳を傾けずに暴走を続ける安倍政権が続く情勢下で、取り組まなければならない課題はともかく、春闘構想の中でも多くの課題を

労働問題を研究している川村先生は、冒頭で「非正規が4割になる中で、非正規をしっかりと組織して労働組合の仲間として一緒に運動していかないと、正規雇用だけで労働条件を進められない。そもそも非正規と正規で不合理な処遇格差がある。何としても非正規問題を解決していかないとけない」と強調しました。



題があること、無期転換運動というのは「労働組合運動の再生」になると、訴えました。他にも公契約条例について述べました。※月刊『医療労働』1月号に講演内容掲載予定。

脈路

関西人の口癖「知らんけど」、無意識に使う「知らんけど」、便利な言葉「知らんけど」、
「ラインは便利らしいで、知らんけど」のように発言に関する責任を回避しているのを見えるかもしれないが、実は「不確かな情報ですよ」と知らせているのである。▼スマホなどの発達により簡単に情報が手に入る時代ではあるが、情報が多すぎて情報過多により処理できず自分で考える能力が落ちていると言われている。フ

エイクニュース」という言葉が象徴するように、これらの情報の真偽や価値をまずは自分自身で判断する必要がある。真偽が定かでない記事を自分の頭で考えることなく鵜呑みにし、さらに他者にシェアしてしまうといった無責任な行動もしばしば見受けられる。▼また心理学では情報が多すぎて処理しきれないような状況を「過剰負荷環境」と呼ぶらしい。アメリカの社会心理学者ミルグラムは、過剰負荷に順応しようとする回避症候群の人々の特徴として4つあげている。①それぞれの情報をできるだけ短時間で処理する。②重要ではない情報は無視する。③責任を他人に押しつける。④他人との個人的な接触はできるだけ少なくする。例えば、電話番号を教えたくない、飲み会に参加しない等だ。▼忙しさもあるが、この情報過多の状況が対面の議論を避けるなど組合活動に少なからず影響しているのではないかとと思う。知らんけど。